

特別支援学校(知的障害)と中学校との「交流及び共同学習」

<実践の概要>

学 年	特別支援学校	小学校・中学校
	中学部 3 年	特別支援学級
交流学习の時間	8時20分から9時50分	
教科・領域等	生活単元学習	学級活動
実 施 時 期	12 月上旬	
単元／題材名「クリスマス会をしよう」		
主 な 活 動 内 容		
1 事前指導		
・活動の内容を伝え、見通しをもたせる。		
2 当日の活動		
① 自己紹介、学校紹介(支援学校 提供)		
・自己紹介の後にスライドで支援学校の紹介をする。支援学校生徒は教師の支援を受けながら、同世代の友達の前で発表する体験をし、相手校は支援学校について理解を深める。		
② クイズ(支援学校 提供)		
・支援学校の生徒が問題文を読み、相手校の生徒が挙手で答える。		
・相手の名前を呼び、交流を深める。		
③ ○×ゲーム(中学校 提供)		
・○や×のエリアに移動するなど、動きのある活動を取り入れる。		
・答えを決める際に相手校の生徒に相談したり、当たったらハイタッチをしたりして、関わり合う。		
④ クリスマス制作(中学校 提供)		
・相手校の生徒の説明を聞き、クリスマスの制作を行う。		
・BGM や装飾掲示物等で、季節感を味わう。		
・自分の家のクリスマスのことを話題にして、コミュニケーションを図る。		
⑤ 感想発表		
・印象に残った内容や今後取り組みたい活動を 発表し、交流学习を振り返る。		

<実践の成果と課題>

<成果>

- ・最初は緊張して声も小さかったが、時間がたつと親しく会話することができた。
- ・支援学校について知ってもらう機会をもつことができた。

<課題>

- ・1年に2回の交流では足りないと感じる。両校とも多忙ではあるが、回数を増やすことができたなら、より深い交流ができるのではないかと感じた。

<効果的な取組・実践エピソード等>

- ・生徒は、中学部から支援学校に入学したので、母親は「子供同士の付き合いが途切れなくてうれしい。」と話していた。
- ・本校生徒は、友達に会えるのを楽しみにしていた。また、「高等部でまた一緒に勉強できるかもしれない。」と関係が続くことに希望をもっていた。
- ・相手校の生徒も、張り切って準備をしたり、名前を呼んで声を掛けたりして積極的に関わろうとしていた。